

「家族がいつも集まる場所なので、一番好きです。」
家族と過ごせる時間が、何よりうれしい。



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.026
カムホームストーリー
高知市
1年6カ月後のMさん家
設計担当:岡本 理絵



「この人なら、大丈夫だと思いました」

「真っ白い塗り壁の家が気になって」と、タイセイホームが施工した家を見つけたのは朝の通勤中のこと。旦那さまは「家を建てるなら、かわいい家」と、輸入住宅に憧れていたという奥さまの言葉を思い出し、「白い塗り壁の家」を手掛かりに施工会社をインターネットで検索、タイセイホームにたどり着きました。その後すぐに資料請求し、返ってきた山本（お客さまサポーター）からのメールを読み進めるにつれ「この人なら大丈夫だと思いました」と旦那さま。訪れた見学会で「ウチは営業せんき、もし興味があるなら来て」と言われ、一から家づくりのノウハウを学びました。自分が人見知りだからと話す旦那さまは「ぐいぐい引っ張ってくれた山本さんにピンときた」と信頼を寄せるパートナーとの出逢いです。「高知にもこんな家建てよう会社があるがやと驚きました」と奥さま。無垢の床、内外の塗り壁、オーダーメイド、すべてが自分たちのイメージに添い、心が動きました。「本当に家が良くて、初めて見た時から決めてました」と、好みが似ている旦那さまも意見がピタリと一致し、タイセイホームとMさまの家づくりが始まりました。

「家族が集まる場所やき、一番好きですね」

2階のベランダを左右対称に真ん中へ配置し、黒い瓦屋根にこだわった外観のMさま邸。社長に提案してもらったというお気に入りのインターフォンの板張りがアクセントになっています。「カーテンを開けたら明るいので電気はいりません」と、壁も床も白を基調とした明るくナチュラルでかわいい内装。間取りをはじめ、職人の手のぬくもりが残る塗り壁、ご夫婦が好きなブルーをあしらったアクセントドア、黒いアイアンの手すりなど、雑誌や見学会で見えて体感したものを取り入れました。「このタイルも好き」と奥さま。ホワイトカラーのキッチンに映えるレンガのような色とりどりのキャンブリックタイルは、お料理中の油污れもおかまいなし。お掃除いらずでデザイン性も実用性も持ち合わせ。今でも新築当初と変わらない状態を保っています。「リビングを広く」とこだわった1階の間取りは大きなソファを置いても十分余裕のある広さ。「家族がいつも集まる場所なので、一番好きです」と顔を見合わせるMさまご夫妻です。小学校5年生になる息子さんは、「時どき」と秘密基地のようなロフトでは大好きなフィギュアを触ってみたり、お友達を招待しています。ロフトも勉強机も、本格的な活躍はまだもう少しと先の方。家族と過ごせる時間が、何よりうれしいMさまご一家です。

「今の家になってからですね、いっしょにキッチンに立つようになったのは」

「タイセイさんは進化していつも新しい発見がある」という旦那さまは、これから家づくりをされるご家族へ「雑誌もいろんな家も、たくさん見たほうがいい家ができると思う」とアドバイス。見学会へ行っても「かわいい」ばかりで、細かいところまでちゃんと見ていなかったと話す奥さまは「最初から細かいところまで見ておくべき」と言います。家に合うものを置きたいと、以前のアパート暮らしとは一転、自分たちの好きな家でインテリアを楽しむことができるようになり「もう少し飾り棚があったら良かったかな」と振り返ります。打合せにはたくさんの雑誌を持って行ってあれこれ考え、間取りにこだわった旦那さまも「岡本さん（設計コーディネーター）がよく分かってくれたから不満はない」と満足気。その隣で「他のお家もいいと思うけど、やっぱりウチが一番やと思います」とわが家への愛着いっぱいMさまご夫妻です。静かにキッチンに立ち、奥さまの淹れたコーヒーを配膳する旦那さま。「前はまったくなかったのに今の家になってからですね、いっしょにキッチンに立つようになったのは」と、にっこり笑顔の奥さま。お仕事忙しい旦那さまは以前ならたまの休みは外食、となるころ、「今は家族そろってご飯を食べるのが楽しい」と奥さまと肩を並べうれい表情です。2階のベランダの旦那さま専用喫煙スペースも「開かずの間です（笑）」とうれしい誤算。この家で過ごす時間が家族の絆を一段と深め、幸せを噛みしめるMさまご家族です。